進路ジャーナル

青森県立森田養護学校
進路指導部　　No.７
発行日　Ｒ５．１０．３１

９月２９日に、職員事業所見学会で、津軽地域にある福祉事業所や障害者雇用をしている企業の見学に行ってきました。見学先には、本校の卒業生がいて、それぞれの作業（仕事）に熱心に取り組んでいました。「就職してから体調を崩すこともなく、一度も休まずに働いている。休まないので頼りにしている」「一つ一つの仕事が丁寧なので、安心して仕事を任せられる」と職場のみなさんからの言葉を聞いて、とても頼もしく、また嬉しい気持ちになりました。卒業生は、「先生たちに、挨拶や返事が大切だと言われていたけど、社会に出て、もっとしっかりと挨拶をしておけばよかったと思っています」「職場の人とのコミュニケーションは、学校での友達とのコミュニケーションとは違うので、難しいなと感じました」と話しており、在学中からの『社会』を意識した取り組みが大切だと感じました。後期が始まりました。『社会』や『卒業後の生活』を意識しながら、毎日の学習に取り組めるよう、支援をしていきたいと思います。

覚えておくと便利な「進路指導に関することば」②

［障害福祉サービスを利用しての就労］

９月に続いて、本校の卒業生が利用している主なサービスから、就労移行支援、生活介護の２つを解説します。

就労移行支援

様々な障害のある方の一般企業への就職をサポートする通所型の福祉サービスです。原則2年間の利用期限があります。就労継続支援事業所や一般企業への就労を目指していくことができます。就労に必要な職業スキルや社会性、基礎生活力を身に付けるために、施設内で講座や職業訓練を受けたり、事業所での実習を行ったりします。また、就職活動のサポートとして、適性に合った職場探しや就職後の定着支援なども行います。本校では、主にジョブライン（社会福祉法人拓心会　五所川原市）、飛翔食房（社会福祉法人共生会　鶴田町）、いわきの里（社会福祉法人健誠会　弘前市）を利用している方が多いようです。今年度、はたらびーた（社会福祉法人あーるど　五所川原）でも就労移行支援事業を始めています。

生活介護

常時介護を必要とする人が安定した生活を営むために、主として施設にて食事、排せつなどの介護のほか、創作活動や生産活動の機会を提供します。利用期限は定められていません。サービス内容は事業所によって送迎・作業・余暇活動・運動プログラム・機能訓練など様々で、本人のニーズに合った施設選びが重要となってきます。

高等部産業現場等における実習

10月2日（月）～13日（金）の9日間、後期産業現場等における実習が行われました。実習は、日々の学習の積み重ね（成果）が、学校以外の場（実習先）でも発揮できるか挑戦してみる機会です。また、どんな働き方や職種が自分に合っているのかを確認する場ともなる貴重な機会です。

生徒たちは、前期実習終了後に振り返りをし、自分の良かった点や課題、改善点を確認し、次のステップへ向けての目標を設定して日々の学習に取り組んできました。

実習の9日間は、慣れない場所で緊張しての活動であり、大変だったことと思いますが、実習明けには、全員が「いい顔」で学校へ登校してきました。

今月は、実習先での生徒たちの頑張りの様子をお伝えします。

【集団実習】風丸農場

５組（１年生）は鯵ヶ沢町にある風丸農場で、りんごの葉取りや、りんご収穫、拾いの作業に取り組みました。葉取りでは、葉の根元に指をかけて、りんごを落とさないように取る方法を教えてもらい、上手に葉取りをすることができました。また、りんご拾いは、機械で落としたりんごを手早くかごに拾い集める作業だったので、膝や腰が辛かったようですが、最後まで休まずに作業に取り組むことができました。風丸農場の木村さんから「みんなが来てくれて助かりました」と言われ、とても嬉しそうな表情で、達成感をにじませていました。

【集団実習】校内清掃及び地域清掃

１組（１年生）は校内清掃やフルーツネットの返しを中心に行いました。校内清掃では、窓清掃に取り組み、スクイージーを上手に使って、学校中の窓（その数２４５枚！！）をピカピカにしました。「ありがとう」「学校の中が明るくなったよ」と声を掛けられ、生徒たちはとても嬉しそうでした。

また、１０月１１日（水）には、鯵ヶ沢町にある、はまなす公園での清掃活動に取り組みました。前の週の強い風でごみがたくさん吹き寄せられており、あっという間にごみ袋が一杯になりました。どの活動も、「誰かに喜んでもらえた」「誰かの役に立つことができた」という気持ちにつながっています。その気持ちが将来働くためのモチベーションにつながることと思います。

【個別実習】ふ～どスタジオハ晃園（五所川原市　就労継続支援Ａ型）

ふ～どスタジオハ晃園は、お弁当や給食の調理、配膳や納豆作りなどを行っている事業所です。仕事中は、基本的に立ち作業となります。

今回は、主に給食の調理や配膳、食器洗浄などに取り組みました。調理では、一度に１００食以上を作るので、材料の量もとても多く、また切る素材や形状に応じて、包丁を使い分けるため、覚えることもたくさんあり大変だったようです。

それでも、これまでの調理の経験も生かしながら、実習先の方の指示通りに作業に取り組むことができました。

普段の食器洗いやお手伝いが、将来の仕事につながることもあるんだなと感じました。

【個別実習】はたらびーた（五所川原市　就労継続支援Ｂ型）

　はたらびーたでは、これまで煮干しのはらわた取りやラーメンの計量コーヒー豆の選別などに取り組んできました。今年８月に事業所併設のラーメンやさん（あーるど製麺）がオープンし、ラーメン店での接客や食器洗いなどの仕事も行っています。

　煮干しのはらわたや頭を取り除くことで、ラーメンのスープの雑味がなくなり、おいしいスープになるのだそうです。目の前でお客さんが「おいしい」と言いながらラーメンを食べている姿に、やる気が起きないわけがありません。お客さんの喜んでいる姿は、何にも代えがたい経験になったのではないでしょうか。実習へ行った３名は、いつも以上に熱心に作業に取り組んでいました。

【個別実習】ＲＥＰＬＡＹ（鰺ヶ沢町　就労継続支援Ｂ型）

　鰺ヶ沢病院のすぐ近くにある事業所です。「わらつと納豆」の手作りキットが新聞で紹介されるなど、最近話題の事業所です。今回はスーパーマーケット用の野菜の袋詰めやりんご選果補助などの仕事に取り組みました。野菜の袋詰めでは、野菜に傷みがないか確認をし、計量をして袋に詰めますが、規程の重さの範囲内に収まるよう、大きさを見ながらの調整が難しく、何度もやり直していました。それでも、繰り返し行ううちに、大きめのものと小さめのものを組み合わせるなど、工夫して作業に取り組んでいました。

【個別実習】夢現（五所川原市　就労継続支援Ｂ型）

　五所川原市の中心地にあるコンビニエンスストアでの施設外就労を中心に行っている事業所です。実習中は、施設内でＰＣ入力や外部就労へ向けての商品のフェイスアップ（商品の前面を通路に向けて並べ替える）や品出しの練習を行いました。コンビニへ行った際には、カゴをきれいに拭いたり、バックヤードの清掃をしたりと様々な仕事に取り組み、最後には店舗でのフェイスアップも行いました。実際の店舗なので、お客さまが来店されたときには、挨拶をすることも必要となり、頑張っていました。

【個別実習】ひまわりの家（つがる市　就労継続支援Ｂ型）

　ひまわりの家では、さをり織り、しゃこちゃんせんべい作り、和紙作りなど様々な作業種を通して、働くための力を付けています。今回の実習では、空き缶リサイクルや銅線の被覆剥離なども含め、様々な作業体験をしました。

　実習生２名は、作業中の態度やコミュニケーション面など、それぞれ目標を考えて臨みました。日頃から作業中の態度やコミュニケーションについて取り組んでおり、その成果をしっかりと発揮できていました。

　学校の指導者がいなくても、慣れない場所であっても日頃学習してきた成果を発揮できており、毎日の学習が「自分の力」として身に付いていると感じました。自信にあふれた、真剣な表情で作業に取り組んでいる姿が印象的でした。

リレートーク「働く」

「働く」をテーマに、本校職員によるリレートーク。2人目は、小学部の岡田先生です。
どんな切り口から「働く」について迫るのか、ご覧ください!!

～リレートーク② 担当：岡田むつ美（小学部）～

今年の24時間テレビで放映された、「虹色のチョーク」というドラマを見た方はいらっしゃいますか？公式サイトのあらすじからざっくり説明すると、「社員の7割が知的障がい者のチョーク会社が、会社の存続を賭けて、新商品の開発に挑む。実話を元にドラマ化。実在するチョーク会社「日本理化学工業」の歩んできた道のりに触れて、【働く幸せとは何か】大切な人と考えてみませんか？」といったものです。

主演はなにわ男子の道枝駿佑君です。道枝君のファンだから見た…わけではなく、その中で出てきた結さんという女の子が我が子に重なり、気になったので最後まで見ました。失敗を繰り返し落ち込み、仕事に行けなくなり、それでも得意なことを生かして会社の中で自分ができる役割を見つけ、笑顔を取り戻し成長していく姿にホロリとしました。

ドラマの中で、「働くことでしか得られない幸せがある」と出てきました。確か、【感謝されること】【褒められること】【役に立つこと】でした。

障害のあるなしに関わらず、ドラマの中で、働くことでしか得られない幸せを経験して笑顔を取り戻す人々が出てきます。自分を振り返っても確かに、これらが一切なければ働くってしんどいです。そしてふと、働くことに限らず、学校生活でもこのことは同じなのでは？と思いました。

ごみ拾いをしたら、「ありがとう」と感謝された。「お願いします」のサインを出して伝えることができたら、「できたね！」と褒められて手伝ってもらえた。自分の係を毎日忘れずに行い「〇〇君がいると助かるよ」と言われ、学級の役に立っていると実感する。その時の子どもたちは、【幸せ】を感じているのではないでしょうか。

学校生活は将来の生活、働くことにつながっており、この幸せを現在も未来も感じられるように子どもたちが行動し、成長していけるように支援していくことが大切なのではないでしょうか。また、仕事だけではなく、家庭においても、「私って役に立ってる！」と実感できる、役割のある場面を作ってあげられるといいですね。

「ありがとう」「あなたのおかげで助かる」「あなたがいて良かった」「すごいね」「えらいね」最近この言葉を誰かに言われましたか？誰かに言いましたか？言われる自分でありたいし、言える自分でありたい、言ってもらえる人を育てられたら、と思っています。